

島原半島南部地域産の化石

その1 北有馬村田平産貝類化石

そう だ とき わ
早 田 常 盤 (口加高校)

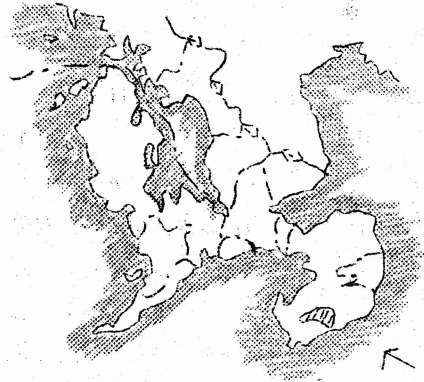
1. まえがき

島原半島南部に位置する北有馬村は、雲仙火山体の北島原地域と、海成層の口之津層群を主とした南島原地域の境界域にあたる。筆者は、1962年10月より地学教材の資料とする為北有馬村田平の田平小学校周辺の東西約0.7km、南北約1.7kmより産出する貝類と有孔虫の化石を採集した。

今回この結果について中間発表する機会を得たが、資料不充分的な為最終的結論は次回にゆずり、その概要を発表する。

2. 北有馬村地域の地質の概要

井上正昭(1953)によれば、この地域の地質について次の様に記述している。「下部に古期岩類の円礫を主体とする砂質礫岩があり、その上位の中部化石層より上は砂質シルト岩とシルト質粘土層の薄互層で凝灰質である。動物化石群は弱内湾性化石を主体としており、岩相と考え合わせて内湾性堆積物と思われる。全層にわたって数回玄武岩の噴出があり、最上部に複輝石安山岩溶岩流がみられる。」







第1図 北有馬村位置図

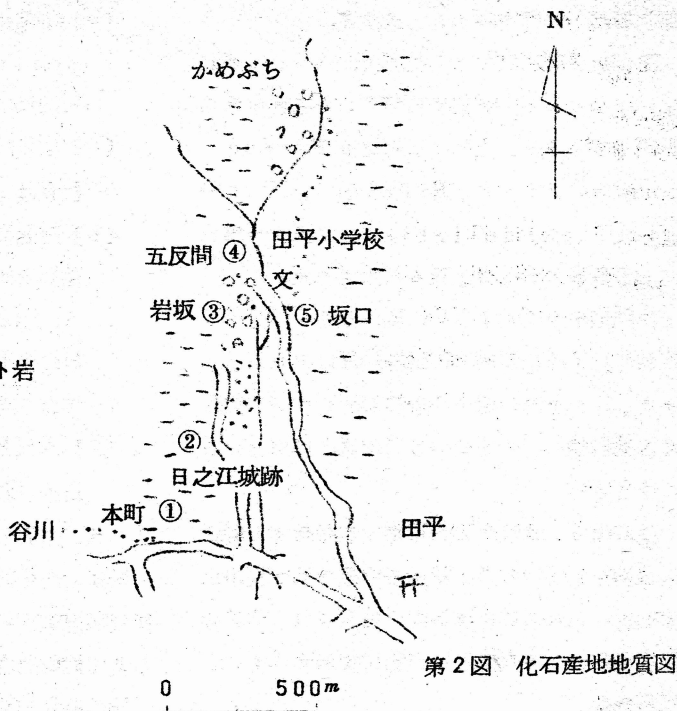
3. 化石産地の地質と位置

第2図、第3図に示したように、下部は粒径0.5~5cmの円礫の多い固結度の低い軟弱な砂質礫岩層で、これより上位は漸次砂質より凝灰質のシルト岩に変化している。

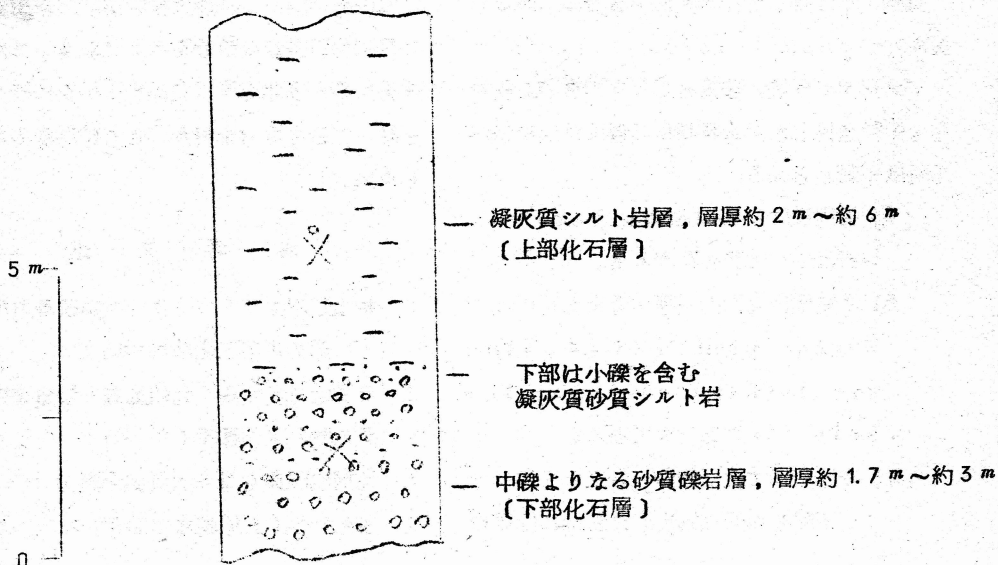
この下部の砂質礫岩層および上部の凝灰質シルト岩より貝類化石等を産する。

凡 例

-  沖 積 層
-  新 期 洪 積 層
-  凝 灰 質 シ ル ト 岩
-  砂 質 礫 岩



第 2 図 化石産地地質図



第 3 図 地質柱状図 (かめぶちの模式地)

以下これらを便宜上、それぞれ下部化石層、上部化石層と分けて呼ぶことにする。

下部化石層には主として *Crassostrea gigas* マガキが密集する部分もあるが、他の貝類も多産する。上部化石層より *Pyrene pamila* ノミナ、*Ringicula* (*Ringiculina*) *doliaris* マメウラシマ等を産し、多量の有孔虫化石も採集された。

沖積地をほぼ北より南に流れる川をはさみ、東側には下部化石層の砂質礫岩層はみられず、ただ、川の上流の田平小学校の北約 1 Km の河床に古期岩類の円礫を含む砂質礫岩の露出をみるにすぎない。

化石層は、貝類化石の種類や岩相等より鮮新世後期～更新世前期、最近の定義では、更新世前期といわれる口之津層群と推定され、前述の井上正昭のいう内湾性堆積物に該当するものと思われる。

4. 田平産貝類化石の性状

貝類化石は概して保存良好であるが、薄質の殻を持つ *Joannisiella lunaris* マンゲツシオガマ等の破損せる保存不良の二枚貝をも多数発見した。本貝類化石群には次に述べる特徴が認められる。

〔1〕構成種は、*Chlamys yagurai*

以外はすべて現生種である。

〔2〕各産地に共通した種で豊富なものは、

Pyrene pamila ノミナ、*Ringicula* (*Ringiculina*) *doliaris* マメウラシマである。

〔3〕産地①②では、種類・数量ともに少なく、下部化石層の露出した産地には種類

個体数とも豊富である。

〔4〕下部化石層よりのみ多産する *Crassostrea gigas* マガキは、上部化石層には発見できない。

〔5〕比較的大型な巻貝および殻質堅厚な二枚貝は、下部化石層に集中している。

〔6〕両殻揃った二枚貝が若干発見できた。脆弱な殻を持つ *Barnea* (*Umitakea*) *japonica* ウミタケは 2 個とも殻は多少破損されてはいたが、両殻揃っており垂直の姿勢で埋没していた。

〔7〕本貝類化石群集は、殆んど内湾性種で占められている。

5. あとがき

採集した化石中には未決定の種もあるので今後資料を豊富にし、その生態的特徴をも深くとらえて地史的考察をも試みたい。

特に有孔虫化石をも多産することは今後の重要な研究課題でもあろう。

本研究に際し、長崎大学学芸学部鎌田泰彦助教授に化石鑑定の手助けを賜り、また化石採集にあたり北有馬村立田平小学校に種々便宜を計って戴き協力を得た。ここに感謝の意を表したい。

参 考 文 献

1. 井上正昭 (1953) 長崎県島原半島南部の古第三紀層について
2. 日本地方地質誌 九州地方 (朝倉書店)
3. 原色動物大図鑑Ⅲ (北隆館)
4. 地層名辞典 (日本地質学会編)
5. 古生物学 (上) (朝倉書店)

田平産貝類化石表

種名	産地				
	1, (本町)	2, (日之江城跡)	3, (岩坂)	4, (五反間)	5, (坂口)
斧足類 (二枚貝類)					
1, <i>Anadara</i> (<i>Scapharca</i>) <i>subcrenata</i> (LISCHKE) サルボウ			3		
2, <i>Crassostrea</i> <i>gigas</i> (THUNBERG) マガキ			A		
3, <i>Anomia</i> <i>lischkei</i> DAUTZENBERG et FISHER ナミマガシワ			4		
4, <i>Dosinia</i> (<i>Phacosoma</i>) <i>japonica</i> (REEVE) カガミガイ		1			
5, <i>Crassatellites</i> (s. s.) <i>nanus</i> (A. ADAMS et REEVE)? スダレモシホ			1	2	
6, <i>Joannisiella</i> <i>lunaris</i> (YOKOYAMA) マンゲツシオガマ	2	3	5		2
7, <i>Chlamys</i> <i>yagurai</i> (MAKIYAMA)			A		
8, <i>Corbicala</i> (s. s.) <i>japonica</i> PRIME? ヤマトシジミ			1		
9, <i>Striarca</i> (<i>Spinearca</i>) <i>interplicata</i> (GRABAN et KING) ヨコヤマミミエガイ			2		1
10, <i>Anadara</i> (<i>Scapharca</i>) <i>broughtonii</i> (SCHRENCK) アカガイ			2		
11, <i>Barnea</i> (<i>Umitakea</i>) <i>japonica</i> (YOKOYAMA) ウミタケ				2	
堀足類 (角貝類)					
12, <i>Dentalium</i> (<i>Paradentalium</i>) <i>octangulatum</i> DONOVAN ヤカドツノガイ			2	2	4 4
腹足類 (巻貝類)					
13, <i>Pyrene</i> <i>pamila</i> (DUNKER) ノミニナ	13	10	31	50	9
14, <i>Ringicula</i> (<i>Ringiculina</i>) <i>doliaris</i> GOUUD マメウランマ	8	4	5	4	1
15, <i>Oliva</i> <i>mustelina</i> LAMARCK マクラガイ			5		
16, <i>Polystyva</i> <i>leucotropis</i> (ADAMS et REEVE) クダマキガイ		1			2
17, <i>Chicoreus</i> (<i>Siratus</i>) <i>pliciferoides</i> KURODA ハツキガイ			2		
18, <i>Siliquaria</i> <i>cumingi</i> MORCH? ミミズガイ			1		1

[備考] (1) 表中の数字は保存良好な採集個体数

(2) Aは特に多産する種